

「恋人の聖地」 銘板除幕 三宅町

2014年09月14日

ツイート 2

おすすめ 56

g+1 0



「恋人の聖地」でラブチェアに座る久保田さんと大濱さん（左から、三宅町伴堂で）

ご意見をお寄せいただきありがとうございます。[元に戻す](#)

お送りいただいたフィードバックは、このサイトの広告の確認に利用させていただきます。

[広告設定](#)を更新していただくと、よりご自分に合った広告が表示されるようになります。

Google

プロポーズにふさわしいロマンチックなスポットとして、NPO法人・地域活性化支援センター（静岡市）から県内2か所目の「恋人の聖地」に認定された三宅町で13日、銘板の除幕式があり、町民ら約100人が参加した。

式が行われたのは、聖徳太子が飛鳥と斑鳩を行き来したという太子道沿いに万葉歌碑が立つ、同町伴堂のポケットパーク。午前10時からの式典で、志野孝光町長が「愛が詰まった、心温まる歴史豊かな町づくりをしたい」とあいさつ。ファッションデザイナー桂由美さんきごう揮毫の金色に輝く銘板「恋人の聖地」と、県産ヒノキを使い大きなハートマークを背もたれに施したラブチェアが披露された。

その後は、万葉衣装を着たカップルや集まった人たちがラブチェアに座り、「恋人の聖地」の雰囲気を楽しんだ。関係者以外で最初に座り、第1号の恋人証明書を贈られた奈良市の保育士、久保田一輝さん（24）と王寺町の幼稚園教諭、大濱幸枝さんはまは「歴史の

ある素晴らしい場所に感動しました。幸せになれる確信を持ちました」と喜んでいました。

2014年09月14日

Copyright © The Yomiuri Shimbun